（投稿：2015 年 10 月 9 日）

ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業と秘密再軍備　（4）

永岑三千輝

はじめに

１．陸軍兵器局と航空機産業―再軍備の基盤の形成―……『横浜市立大学論叢』第 65 巻、社会科学系列、1・2・3 合併号
２．ヴェルサイユ体制下の戦勝国・中立国の軍需とハインケル社……『横浜市立大学論叢』第 66 巻、人文科学系列、第 1 号
３．世界の勃興期航空産業とユンカース……『横浜市立大学論叢』第 66 巻、社会科学系列、第 2 号
４．ドルニエーとドイツ航空機産業の世界的転回……本号

４．ドルニエとドイツ航空機産業の世界的転回

ナチスの政権掌握（1933 年 1 月）とともに始まった大々的な秘密再軍備（公然化は 1935 年）の中で、航空機産業の軍用機生産はとりわけ急速に拡大した。その前提となったのは、ワイマール期、ヴェルサイユ条約履行体制下の民需用飛行機の開発であった。既述のハインケルとユンカースがナチス期再軍備の中核に位置付けられたことは言うまでもないが、ドルニエ社も、1934－35 年のミルヒの航空機秘密再軍備の計画の中で、計画の筆頭にあげられ、重要な位置を占めていた[1]。いやむしろ、爆撃機においては、生産者の筆頭にあげられ、ユンカースが副次的役割(補助的爆撃機の生産）に置・・・・・

（以下略）

---

[1] ドルニエと彼の会社の歴史の概観には、社史として、Joachim Wachtel, *Claude Dornier －Ein Leben für die Luftfahrt*, Friedrichshafen 1989 がある。このコピーライトは Dornier GmbH にある。ドルニエが「目が言うことを聞かなくなり始めた 82 歳の時に」、妻の助けを借りつつ書いたという自伝は、Claude Dornier, *Aus meiner Ingenieurlaufbahn*, Zug/Schweiz 1966.